令和3年度
全国学力・学習状況調査結果の概要

■令和3年5月27日実施（小・中学校全校実施）
■実施教科　小学校…国語　算数
　　中学校…国語　数学

1　教科に関する調査の状況について

小学校第６学年

教科	国語	算数
成果	○目的や意図に応じ、資料を使って話す問題で、全国平均正答率を上回っており、資料を使って話す内容を捉えることができている児童が多いこと。 ○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題で、全国平均正答率を上回っていること。	○全体的な傾向として、全国と比較すると、難しい問題にも粘り強く取り組み、解決に向けた努力をしている児童が多いこと。 ○棒グラフから数量を読み取る問題の正答率が、全国平均正答率よりも良好だったこと。
課題	●自分の主張が明確に伝わるように、資料を活用しながら、文章全体の構成や展開を考えて書くこと。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を、文脈に即して正しく使うこと。	●三角形の面積を求める問題では、底辺と高さの関係が十分に理解できていない様子が伺えたこと。 ●割り算の式を立てる問題では、割る数と割られる数の関係が十分に理解できていない様子が伺えたこと。
改善策	◎条件作文や推敲等、実践的な学習を意図的・計画的に行い、目的や意図に応じて理由を明確にしながら書く力が身に付くよう指導を充実させる。 ◎「必要な情報を見付け、整理し、自分の言葉で再構成する活動」、「図表と結び付けて文章を書く活動」及び、「文章を要約する活動」についての指導を充実させる。 ◎日常生活の中で、既習の漢字を積極的に使うよう促すとともに、文脈に合った漢字を判断し使用する指導を充実させる。	◎「なぜそうなるのか」を自ら考え、相互に伝え合う活動を大切にする授業を継続して実践し、児童一人一人の思考力や表現力等の育成を図る。 ◎図形を様々な角度から観察し、「ここが底辺だとしたら、どこが高さになるかな？」など、図形を多様な角度から観察する授業を行う。 ◎「色水を分ける」など実生活の行動と式を連動させる活動を授業に取り入れ、式の立て方の理解を深める。

中学校第３学年

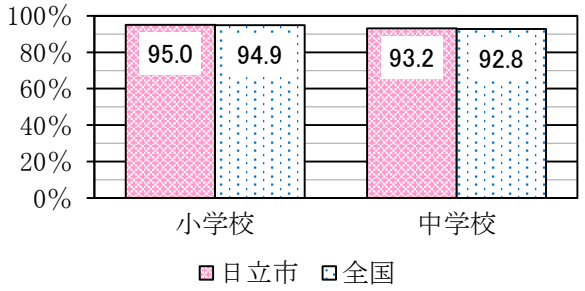
教科	国語	数学
成果	○話合いの話題や方向を捉える問題で、全国平均正答率を上回っており、話合いの話題や方向を捉えるとともに、司会の役割について考えることができる生徒が多いこと。 ○伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く問題で、全国平均正答率を上回っており、相手や場に応じた言葉遣いで、必要な内容を書くことができる生徒が多いこと。	○与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取る問題の平均正答率が高く、全国平均正答率も上回っていること。 ○数式を用いて、60が４の倍数であることを表現する問題の平均正答率が高く、全国平均正答率も上回っていること。 ○ヒストグラムから、ある階級の度数を読み取る問題の平均正答率が高いこと（全国平均正答率は若干下回っている）。
課題	●事象や行為などを表す多様な語句についての理解を問う問題で全国平均正答率を下回っており、話や文章の中の語彙についての関心の低さが見られること。 ●相手や場に応じて敬語を適切に使うことを問う問題で全国平均正答率を下回っており、敬語の適切な使用や種類の理解が十分に定着していないこと。	●文章で答えを記述する問題の正答率は、全国平均正答率と比較して落ち込みが大きく無答率も高く、論理的に説明することに習熟していない様子が伺えたこと。 ●整式の加法と減法の問題では、平均正答率の低さから、マイナスを分配して括弧を外す技能が十分に定着していない様子が伺えたこと。
改善策	◎教材文中にある語句について、辞書で意味や用法を確認するだけでなく、短作文など実際に使用する活動を通して、語彙を増やす指導を充実させる。 ◎日常生活においてよく使われる敬語の一覧表を作成したり、「行く」や「食べる」のように尊敬語と謙譲語の見分けが難しい敬語を使い分けたりするなど、実践的な指導を充実させる。	◎グラフの読み取りや解釈、扱いを重視し、「式・表・グラフ」を連携させた指導を継続して行う。 ◎「なぜそうなるのか」を明らかにする授業を行うとともに、論理的に考えたり表現したりする活動を充実させる。 ◎マイナスの分配などは、計算方法だけではなく、「なぜそうなるのか」の意味理解を十分に行い、適用問題に取り組むことで数学的な技能の定着を図る。

2　質問紙調査の状況について

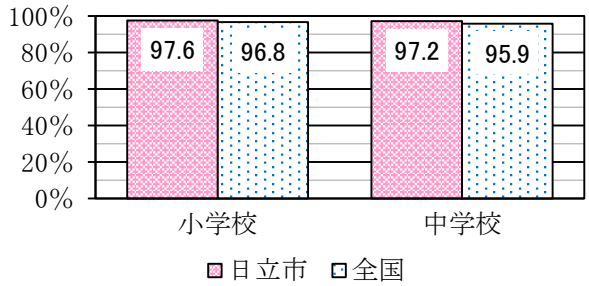
生活習慣、規範意識

朝食を毎日食べている児童生徒及びいじめはどんな理由があってもいけないことだと考えている児童生徒の割合は、全国の割合よりも高い。

朝食を毎日食べていますか。（児童生徒質問紙）



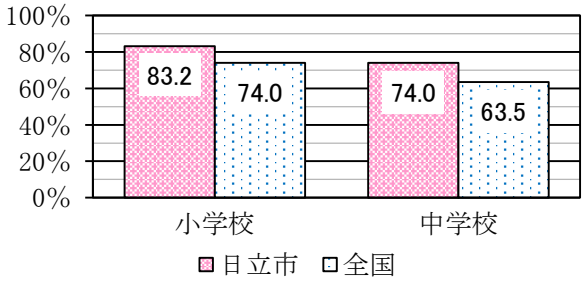
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。（児童生徒質問紙）



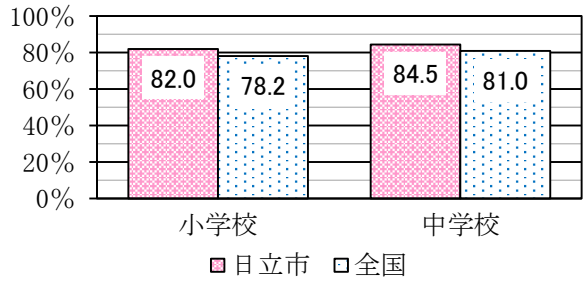
学習習慣

家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合は、全国の割合よりも約 10%高い。

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（児童生徒質問紙）



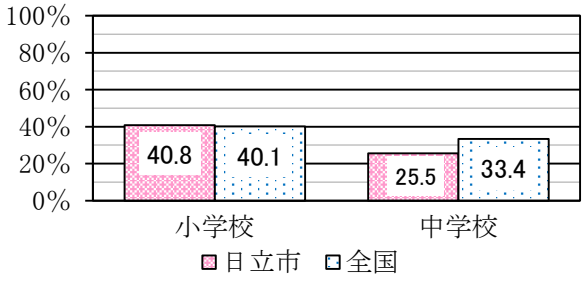
前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。（児童生徒質問紙）



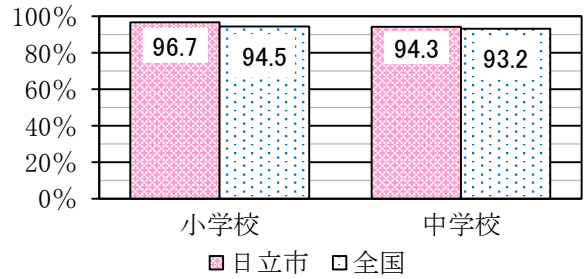
ＩＣＴの活用

ＩＣＴ機器の活用が勉強に役立つと考えている児童生徒は全国の割合よりも高いが、中学校においてＩＣＴ機器を活用して学習したと考える生徒の割合が全国の割合よりも低い。

前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか。（児童生徒質問紙）　※ 週１回以上と回答した児童生徒



学習の中でコンピュータなどのＩＣＴ機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。（児童生徒質問紙）



学力向上のために

１　質問と正答率との関係
　　朝食を食べている頻度が高い児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

２　課題　情報活用能力を「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、その育成を図るとともに、ＩＣＴ機器を効果的に活用して授業を展開すること。

３　改善のポイント
　　これまでの教育実践とＩＣＴのベストミックスを図り、ＩＣＴを活用した学習を充実させる。